

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

アジア国際医療連携室を開設

この4月、地域医療連携センター（吉良潤一センター長）のなかに、ユニークな部門が設立されました。アジア国際医療連携室です。もともと“地域医療連携”とは、病院や診療所がお互いの特徴を生かしながら協力することによって、よりよい医療を地域に暮らす皆様に提供しようというものです。その範囲を、福岡あるいは九州にとどまらず、アジア全体に広げて考えてみようということです。まず、外国人の患者さんが安心して受診していただけるよう、通訳のサービスを準備しています。また、海外の医療従事者の研修を積極的に受け入れ、海を超えた共同研究や先端医療の提供がスムーズに行える体制を整えて、アジア全体の人々の健康に貢献する九大病院を目指したいと考えています。

“医療連携”には、もうひとつ、大きな意味があります。いろいろな病院とお付き合いをすることによって、自分の病院の長所や短所に気付くのです。実際、5月にバンコクの病院を訪問させていただいたときには、想像以上に能率的で、患者さんへの心配りが徹底していることに圧倒されました。7月下旬には、かねてから交流を行っている韓国の慶尚大学病院を訪問して、単なる見学ではなく、各部署が持っている問題点や特徴について話し合いをしてきました。おのおの国で、言葉や習慣は異なっていますが、医療の中心に患者さんがいることに変わりはありません。アジアの国々の病院から学びながら、九大病院が皆様にとって本当に納得して医療を受けていただける場となれるよう、努力したいと思えます。

（文責 アジア国際医療連携室長 牟田耕一郎）



新病院Ⅱ期棟（北棟）では 歯科部門も同じ建物内になります

本院は現在新病院の建設中です。新病院は3期計画で進めていますが、そのうちのⅠ期棟（南棟）は既に利用されています。そしてⅡ期棟（北棟）が完成しつつあります。外から見るともう建物はできあがっています。これから内装工事や医療機器の設置、そして役所の検査を経て、来年4月よりオープンします。これで、精神科を除くすべての病棟が、新病院に移転することになります。3期工事で外來棟ができると現在の外來も新しいビルへと移り、新病院が完成します。新しい病院は免震構造を備え、地震でも揺れが少なく安心です。また、最新の医療機器を備え、クリーンで明るく、患者さんにとっても快適で利用しやすい病院になることと思えます。

こやの きよし
統括・歯科担当副院長 古谷野 潔

MESSAGE from Kiyoshi Koyano

平成15年10月の病院統合後も歯科部門は旧歯学部附属病院の建物で診療を行ってきましたが、今回のⅡ期棟完成後は、7階に歯科病棟が、4・5階に歯科外來が入ります。これによって、医科と歯科の治療をより緊密に行うことができるようになり、九州大学病院における全人的医療の提供体制がさらに充実することになります。歯科外來ができる4・5階というのは、外來に通院される患者さんと、入院患者さんの両方にとって便利な位置にあります。歯科部門では、歯・ロ・アゴに関することならおおよそどんな悩みでも対応しています。どうぞ、歯科部門にもご遠慮なくお出でください。



脳神経外科は昭和41年第1外科から独立して設立されました。平成14年4月からは佐々木富男教授が着任され「患者さんに優しい医療」をスローガンに教室員一同頑張っています。脳神経外科とは、脳や脊髄の病気を主に手術で治す分野です。主に扱う病気は、脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、てんかんや先天性奇形等が挙げられます。当科では昨年、最先端の非侵襲的脳手術支援システムを充実させ、まさに「脳に優しい、安全で正確な手術」を実現しました。

なかでもパーキンソン病に対する脳深部刺激療法は最先端の画期的な治療法です。この方法では、脳に電極を植込んで弱い電流を流すことによってパーキンソン病の症状（筋肉のこわばり、震え、動作緩慢、歩行障害など）を著明に改善させます。脳深部刺激療法は従来の脳破壊手術とは異なり、安全で、合併症がほとんどないことも大きな特徴です。胸部に植込んだ刺激装置の電池寿命は約5～6年ですが、局所麻酔の簡単な手術で電池交換できます。ほかにも、振戦・ジストニアなど、従来の薬物治療では治らなかった不随意運動疾患（体の一部が意思に反して勝手に動く、または意思どおりに動かせない病気）に対しても非常に有効で、寝たきりの方が脳深部刺激療法によって普通に生活できるようになることも珍しくありません。

患者さんが脳の健康を取り戻し、元気で充実した生活を送れるよう、私たちは常に全力を尽くしています。

（脳神経外科 TEL：092-642-5533）



体内に植込まれた脳深部刺激装置のイメージ図

レーザー・美容外来

●レーザー外来

茶色や青色のアザ（扁平母斑、太田母斑、異所性蒙古斑など）と、赤色のアザ（血管腫）や毛細血管拡張症は、以前は切り取るあるいは削り取るような手術が一般的な治療手段でしたが、現在はレーザーを使って大きなキズをつくることなく治療するということが可能になりました。

レーザー治療の歴史は40年余ですが、研究・改良が重ねられ、機械の性能が上がるとともに治療成績もこの10年でかなり向上しました。

保険診療で治療できるアザと保険適応外（私費）診療となるアザ（色素性母斑など）があり、また治療の反応性も異なりますので、診察時に担当医におたずねください。

予約制：月曜日のみ（初診の方は、原則的に診察のみとなります。）

●美容外来

ニキビやシミなどで悩んでおられる患者さんから、「あらゆる化粧品・市販薬をためましたが効果がない」、「保険診療の範囲内では治せない」などのお声をよく耳にします。少しでも解決する方法をご提案できればと考えて、この美容外来を開業しました。主な治療内容は、ケミカルピーリング、ビタミンのイオン・超音波導入、レーザー治療など、保険適応外（私費）診療が中心となりますが、それ以前に、ご自宅でのスキンケア製品を正しく選ぶだけで問題が解決することもあるため、初回はカウンセリングを受けて頂きます。最近では男性の患者さんも増えています。また、要望にお応えして、他の医療機関での美容医療についてのセカンドオピニオンにも対応していく予定です。

予約制：月・金曜日のみ（初診の方は、カウンセリングのみとなります。）

（皮膚科 教授 古江増隆 TEL：092-642-5596）

臨床研究センターが行っている

平成15年に、九大病院に「臨床研究センター」が設置されました。業務は、新しい治療法や診断法の開発のお手伝いをすることです。具体的な例をお示ししましょう。外国で効果が証明されている新しい抗癌剤や分子標的薬が国内で使用できないことが社会問題化しています。しかし、外国人では有効で安全な薬が日本人にも有効で安全かは、実際に日本人で調べてみないとわかりません。患者さんのご協力をいただいて、本当に安心して使える良薬かどうかを研究することが必要になります。この仕事をより円滑にかつ適正に実施するお手伝いをするのが臨床研究センターの使命です。また、科学技術の発展に伴って新しい診断薬や検査法、医療機器が次々に生み出されています。これらが真に信頼できるものとして広く社会で使われる価値があるかどうかは、実際に患者さんで確認させていただくことが必要です。新規医療技術を医学に応用するための最終段階の研究が、患者さんやボランティアの方々のご協力の下に行う「臨床研究」ということになります。

臨床研究センターでは、2名の医学研究者、10名の臨床研究コーディネーター、5名の事務系スタッフを中心に、多くの診療科のご協力の下、新しい医療技術の研究開発のお手伝いをさせていただいています。

（連絡先 臨床研究センター 中西洋一 TEL：092-642-5774）

「七夕ロビーコンサート」 が開催されました

参加者のご感想をご紹介します。

- ・高校生らしく非常に良かった。わが子を思い出して涙が出そうでした。
 - ・一生懸命さが伝わってきて微笑ましく、病気のことを一時忘れていました。
 - ・気分がパッと明るくなり、元気をもらい、心のゆとりができました。
 - ・とても癒され、昔をいろいろと思い出しました。
 - ・クラシック演奏を生で聞けて感動しました。本物の音は良いですね。
 - ・最後の全員合唱は、涙ぐむほど良かったです。みんなで歌えて最高でした。
 - ・手づくりのコンサート、皆様の気持ちがありがたく嬉しかったです。
 - ・気分も落ち込みがちな入院生活で、希望や明るさ、元気の素を得られるコンサート。これからも続けていってほしいです。
 - ・素敵なひとときを有り難うございました。
- 次回のコンサートも精一杯の企画を練ってまいりますので、どうぞお楽しみに！

(患者サービス委員会 高杉紳一郎)

患者さんご家族皆様の不安や苦悩が少しでも癒されるようにと、7月13日に恒例の七夕コンサートが開催されました。18回目となる今回は、第1部では修猷館高校からバイオリン二重奏と、コーラス部の皆さん、第2部では九大フィルのベテランOBによる弦楽四重奏が出演され、アイネクライネナハトムジークやディズニーソングなどを熱演、心なごむ楽しい演奏会になりました。最後のアンコールでは、約300名の聴衆と出演者が心をあわせて「見上げてごらん夜の星を」を大合唱して感動の輪が広がり、夏の夜のコンサートは大盛況のうちに幕を閉じました。



がんの治療は早期癌や進行癌でもその半数はほぼ治る時代になりました。一方、残念ながら進行しすぎて治らない癌もあります。このような進行癌は手術が行える場合は少なく、多くの場合は放射線治療や抗癌剤治療が行われます。しかし、これらの治療は大なり小なり副作用が出て、

そこで別府病院外科（森正樹教授）では患者さんから高度先進医療の認可を受けました。その一部はの後朝日新聞、日経新聞などのほか、地元のマスメディアで紹介いたします。

この治療は患者さんの免疫力の全体的な力を高撃するリンパ球を患者さんの体の中で増やす新し樹状細胞という特殊な細胞をまず増やします。次球を増やす」ように教育し、再び患者さんの体内癌細胞だけを攻撃するリンパ球を増やしてくれます。副作用がないことがとても良い点です。ただこの療は癌の進行を遅らせ、患者さんのQOLを高める

九大病院別府先進医療センター 外科の癌ワクチン療法

患者さんが苦しむことも少なくありません。んの免疫力に着目した治療を開発し、最近、国かすでにこの九大病院だよりで紹介しましたが、そコミなどで報道され、反響が大きいので、あらた

める従来の免疫療法とは異なり、癌細胞だけを攻い治療法です。このためには患者さんから採血して、にこの樹状細胞に「癌細胞だけを攻撃するリンパに注射で戻します。そうすると体内で樹状細胞が癌細胞だけを攻撃し、正常な細胞は攻撃しないため、治療だけで癌が完全に治るわけではなく、この治ものということをご確認ください。

この治療は患者さんであれば全員が受けられるものではありません。癌細胞が特殊な目印を持っていること、血液型が適合することの2つの条件が合うことが最小限必要です。その他にも若干の制約がありますので、詳細は下記にご相談ください。

担当：外科専門診療科 田中文明
メール：fumi@beppu.kyushu-u.ac.jp
電話：0977-27-1650

癌細胞を攻撃するリンパ球



※奨学寄付金とは、教育・学術研究の奨励及び病院運営の助成等のため、個人・法人等から寄付金として受け入れるものです。詳しくは、左記係へお問い合わせ願います。

歯科の基本治療の全てが1つの部屋で出来る

●口腔総合診療科● TEL092-642-6490

口腔総合診療科は、平成11年10月に試行設置され、平成14年5月に正式に発足しました。従来は、患者さんが受診しますと歯の根の治療は保存科で、冠をかぶせる治療は補綴科と、複数の専門診療科を移動する必要がありました。当科ではこのような問題を解決し、シームレスな治療を目的として設置され、一つの診療室で治療を全部済ませることが出来ます。当科の業務の第1は、う蝕や歯周病の予防処置と治療、抜歯、金属冠・ブリッジ・義歯による治療など、一般歯科全般にわたる治療を行い、患者さんの希望に応じて治療終了後の定期的なお口の清掃と管理も行っています。第2は、研修歯科医の教育指導を歯科部門の中心となって行っています。第3は、毎日午前8時30分から午前11時まで、口腔画像診断科と交代で予診業務を担当し、紹介状がない初診の患者さんを診察し、それぞれの患者さんに最も適した診療科を紹介しています。

なお、当科では重篤な全身疾患がなく、一般的な歯科疾患を持つ患者さんを対象としています。したがって、高度先進的な専門治療を必要とする場合や重篤な全身疾患がある場合は、速やかに専門科へ紹介し、各専門診療科と密接な連携をとりながら治療を進めています。



外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。
(市外局番は「092」です)

科名(電話番号)	初診日	再診日	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1 総合診療部 (642-5300)	月～金	月～金	1 第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金	救急部受付	642-5873
1 内科(初診) (642-5300)	月～金	月～金	1 整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	時間外受付	642-5163
2 内科(再来) (642-5302)			2 脳神経外科 (642-5533)	月・水・(金)	月・水・(金)	総合外来受付	642-5138
1 産科産後医療部 (642-5421)	月～(金)	(金)	2 心臓外科 (642-5565)	月(水)木	水(木)	入院受付	642-5149
1 先端分子診療科 (642-5996)	月～金	月～金	2 小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	公費申請受付	642-5167
2 心療内科 (642-5335)	月・木	(火)(水)(金)	2 皮膚科 (642-5596)	月・水・金	(火)(木)	地域医療連携室	642-5165
2 神経内科 (642-5349)	(火)(木)(金)	月・(水)	2 泌尿器科 (642-5615)	月～金	月・水・金	支払い窓口	642-5169
2 循環器内科 (642-5371)	月～木	月・(水)	1 精神科神経科 (642-5640)	(火)(木)	月～(金)	リハビリ受付	642-5862
2 呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火・水・金	1 腫瘍科 (642-5660)	月・水・金	月～(金)	医療相談	642-5914
産科婦人科 (642-5409)	火・木	月～金	2 耳鼻咽喉科 (642-5681)	(火)(木)	月(水)(金)	在宅医療指導室	642-5185
2 児童母子センター (642-5900)			1 放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金		
2 小児科 (642-5430)	月～金	月～金	2 麻酔科衛生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1 先端理工学診療部 (642-5993)	月～金	月～金	別館 歯科医療センター (電話は総合診療科へ)	月～金	月～金		
1 第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金					

※ただし、歯科麻酔科の初診日は月・水・金のみ。
※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12/29～1/3)
- 受付時間(窓口)
8:30～11:00
自動再来受付機
8:15～11:00
- 外来玄関開閉時間
7:00～18:00

歯科医療センター

- 受付時間
初診
(窓口)8:30～11:00
(口腔ケア・予防科の口臭
クリニックは、火・木のみ)
- 再診
(窓口・自動再来受付機)
8:30～15:00
(矯正歯科は、
8:30～16:00)

- 注
- 予約がある場合はこの限りではありません。
 - 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

病院にお越しの際は保険証をお忘れなく！
※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができません。

(代表) 092-641-1151
〒812-8582
福岡市東区馬出3丁目1番1号

ご意見・ご感想を電子メール(ibs_koho@jimu.kyushu-u.ac.jp)
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております！

